

令和6年度 藤棚地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

西区の中でも高齢化率が高い地域で、ひとり暮らしの高齢者人口も多い地域です。山坂や階段が多い地域であり、外出できない高齢者が多くいます。身近な場所での居場所づくりや生きがいづくりが課題となっています。地域活動の支え手が減少しているため、新たな協力者が必要となっています。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■		学校や企業などと連携し、多世代交流や異文化交流を行います。
■		多世代が集えるケアプラザを目指し、より多くの方が参加できる事業の開催をしていきます。
■		地域活動交流、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター担当職員が連携して、積極的に地域に出向いて事業や出前講座を実施します。
■		地域包括ケアシステムの推進に向けて、さらに地域の状況・課題の把握に努め、医療と介護の連携に努めます。
■		地域包括ケアシステムの推進に向けて「地域ケア会議」を開催します（個別レベルを年3回以上、ケアプラザレベルで年2回以上実施）。

☐ 振り返り

・新規「学校や企業などとの連携」
稲荷台小学校や岩井原中学校の児童生徒が地域行事「ふれあい春まつり」「福祉フェスタ」等でのボランティアとして、参加しました。また、横浜デザイン学園と連携し、留学生にシニアクラブが取り組んでいる「昔あそび」のボランティアとして参加してもらいました。地域の高齢者との多世代交流・異文化交流を進めています。

・新規「多くの方が参加できる事業」
ふれあい春まつり、藤棚まつり、健民祭などで「健康チェック」を行い、子どもから高齢者まで多くの方に健康に関心を持ち、健康づくりをツールとして、多世代が集えるよう工夫しています。

・委託部門の連携
今年度は、自主事業として、地域活動、生活支援、地域包括が連携して「ふじだな夢学園」を年間を通じて実施し、フレイル予防、担い手育成に努めましたが、引き続き、担い手不足解消への工夫と対応が必要になっています。

・医療介護連携
在宅医療連携室との相談を積極的に行い、西区医師会の疾患別研修等に参加する等、医療と介護の連携を進めています。

・地域ケア会議は、個別レベル 3回、包括レベル 1回（予定）を実施し、課題の解決や居場所等のネットワークづくりにつなげています。

☐ 区からのコメント

（全事業共通事業）
○日頃からコーディネーターと地域包括支援センターが連携・協働し、柔軟な発想を生かして、地域における新たなつながりづくりや担い手づくりにご尽力いただきました。特に、小学校や専門学校とのつながりをきっかけとし、新たな場づくりや活動に繋げていく発想力や、コーディネート力が光ります。また、自主事業「ふじだな夢学園」もよく考えられた企画で、各部門が連携して実施されている点も良く、今後の展開に期待しています。
○昨年立ち上がった地域食堂が、第3地区の地域活動として継続して活動できるよう、活動者の想いを丁寧に聞きながら支援していただきました。引き続き、地域活動の継続に向けた支援をお願いするとともに、にこまちプラン地区別計画の推進や次期計画策定について、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の3者で連携しながら、地区支援に取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
○各エリアの様々な居場所等を支援されていることで活発な地域活動が維持されています。今後も引き続き、多職種によるアセスメントを通じた高齢者の健康維持や生活維持に、多様な主体による資源の活用も視野に入れながら、地域で高齢者を支える取組がより一層推進されることを期待しています。

（地域包括支援センター事業）
○認知症、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等様々な分野で、地区診断に基づいたエリアのニーズに合わせた講座や相談会を開催いただくとともに、ケアマネージャーをはじめとした関係機関への丁寧な支援を行っていただきました。委託部門が有機的に連携され、新たな対象層へのアプローチも行っていただき、フレイル予防や担い手育成を進めていただいたと思っています。認知症の取組においても、引き続きチームオレンジに参画され、認知症理解の促進に向け、当事者を招いての講座の開催等や多世代への啓発等、工夫を重ねていただきました。今後も、地域住民、関係機関との連携・協働による見守りやつながりづくり等、地域づくりが一層推進していくことを期待しています。